

分かりづらい優しさ

西部中・2 千葉 暖心

朝リビングに向かう

するとお父さんが亀の世話をしている
そして返答はないのに話しかけている
それを見て変人だと思ってしまう
家を出ると見送ってくれる
だから明るく学校に向かえる

姉が虫が出て騒いでいると

「虫は無視だ。」
とだじゃれを言っている
また疲れて糖分を欲しているときには
「チョコをちょよこつと。」
とだじゃれを言っている
そういうところがおじさんだと思う

帰宅後いつも知らない曲が流れている
たまにお父さんの車に乗ると
知らない曲や映画が流れていて
短い時間ですぐ寝てしまう
でもお父さんは気持ちよさそうに歌っている
趣味が共感できなくて少し寂しい

お父さんが陽気な曲にはまると
家はもちろんどどこでも歌っている

歌う声は大きくて

外や近所の家に聞こえそうではずかしい

ある日庭の木を切るお手伝いを頼まれた
だがまだ宿題が残っていた

なので先にとりかかった

終わるのを何も言わずに待っていて
優しいと思う

工具を組み立てるのは器用にこなすけど
私や家族に接することは不器用で

少しいらいらしてしまうけど

それもおもしろく思えてしまう

兄と姉が食器を洗っていないと

文句を言いながらもちゃんと洗ってくれる
でもしばらくたつてリビングに戻ると

お酒を飲んで死体のように寝ていて

お母さんと顔を見合わせて笑ってしまう

お父さんは変人だけど優しい

お父さんはおじさんだけとおもしろい

お父さんは怖いもの知らずではずかしい

お父さんは器用だけど不器用だ

そんな変わった人だけど

家族思いでとても優しい

たまに意見が合わなくて

いらつとする

けどすぐいつもどおりになる

お父さんの優しさは分かりづらい

だからこそ気づきたい

分かりづらくて不器用な優しさ

そんなお父さんが私は大好きだ